

憂慮される諏訪地域の人口減少

— 平成22年国勢調査値からみた将来推計人口の分析 —

24.1.17 (23.12.9) 矢島義恭

1. 20年後には大きく減少する6市町村の推計人口

〔平成22年～42年の間〕

岡谷市

13,900人 26%減少

諏訪市

10,767人 21%減少

茅野市

5,075人 9%減少

下諏訪町

7,145人 33%減少

富士見町

1,419人 9%減少

原村

60人 1%減少

諏訪合計

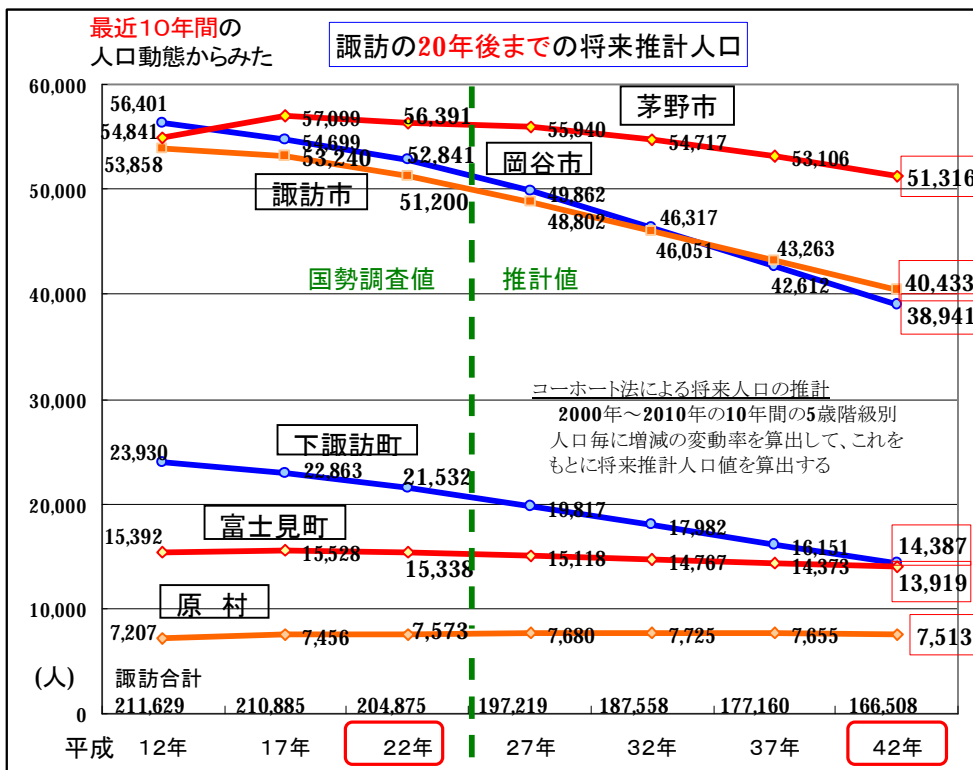
38,367人 18.7%減少

全国

8.9%減少

(国立人口問題研究所の平成

22年基準の中位推計値)



(1) 最近5年間に大きな人口減少がみられました (平成17年から平成22年の間)

- 諏訪地域6市町村の合計で6,010人、これまでに例のない約3%の大きな減少がありました。
- 湖周3市町で大きな人口減少がありました。
 - 岡谷市は1,858人で約3%の減少がありました。
 - 下諏訪町は1,331人で約6%の減少がありました。
 - 諏訪市は2,140人で約4%の減少がありました。
- 八ヶ岳山麓の3市町村では数百人規模の微減微増であった。
- これまで大幅に増加していた茅野市が一転して減少に転じ、微減であった諏訪市が大きな減少にと転じました。

(2) 20年後の平成42年の将来推計人口は激減します (平成22年から平成42年の間)

- 6市町村の諏訪地域合計で38,367人18.7%と、20%近い人口の激減が推計されます。
- 湖周3市町では大幅に人口が激減します。
 - 岡谷市は13,900人で26%も減少し、一番多かった昭和55年の人口62,210人と較べると、その約63%にまで減少します。約3分の2ということです。
 - 下諏訪町も7,145人で33%も減少し、最多時の昭和48年の人口27,502人と較べると、その約52%にまで減少します。半減することになります。
 - 諏訪市は10,767人で21%減少し、最多時の平成16年の人口53,901人と較べると、その約75%に減少します。
- 八ヶ岳山麓の3市町村でも微減微増から人口減少にと転じます。茅野市で約9%、富士見町で約9%、原村でも約1%の人口の減少が推計されます。
- 自然減が大部分である全国の人口は8.9%の減少に止まるのに対し、諏訪地域の人口減少が18.7%と大きくなるのは自然減のうえに更に社会減が大きいからです。

2. コーホート法による将来人口推計値の確度についての考察

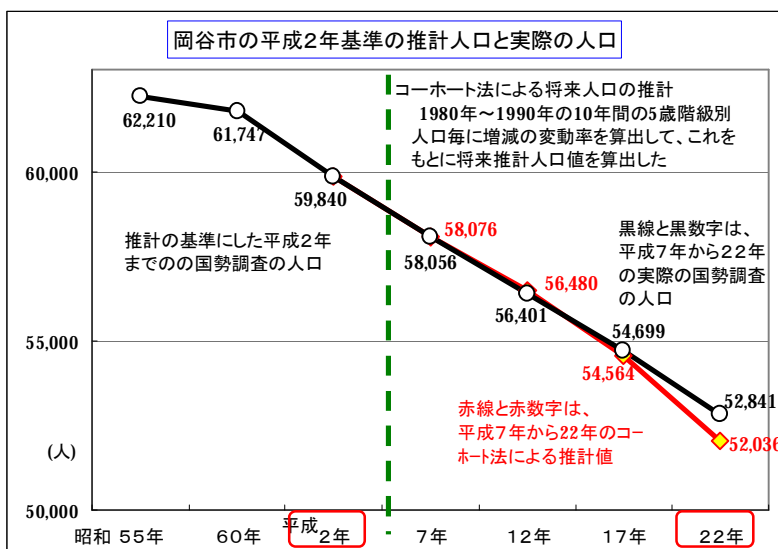
— 20年前の推計値で確度を検証する —

(1) 将来人口の推計方法としてのコーホート法とは

- ① 将来人口を推計するときに、官庁などで一般的に用いられている手法です。基準となる年(国勢調査年)より前の5年間なり10年間の、年齢5歳階級別の人口動態の変移率をだして、これらを基準としてこれ以後の将来人口を推計します。5年間の場合は直近の変移をそのまま反映した推計値となり、10年間の場合は5年間より長期のため緩和された推計値となります。
- ② 大きな人口減が継続した岡谷市と下諏訪町について、20年前の平成2年を基準としたコーホート法による将来人口推計値を算出し、その後の国勢調査による実際の人口と比較して、推計値が当たったかどうか評価してみました。

(2) 岡谷市の、平成2年基準の推計値と その後の20年間の実際の人口との比較

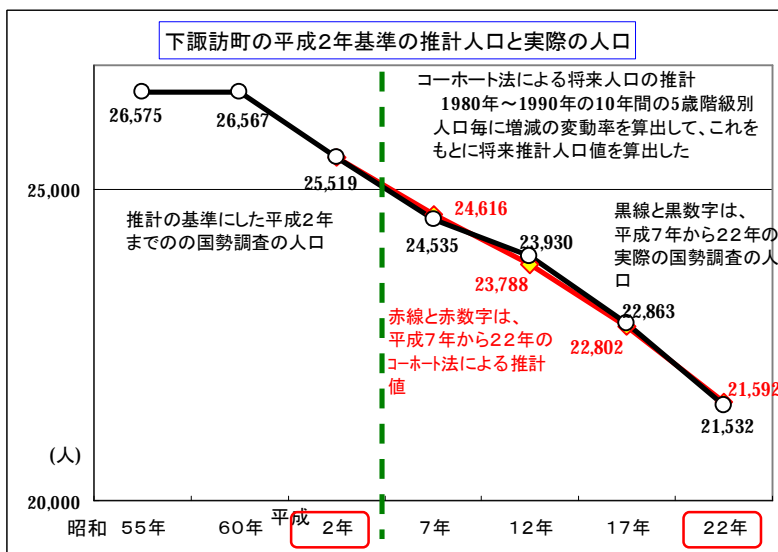
- ① 平成2年基準で算定した推計値と、平成22年までの実際の人口の推移は概ね同数で、推計値が実際の人口の推移をほぼ正しく推計していたことになります。
- ② ただし、平成22年の推計値と実際の調査値の間には800人ほどの開きが出ました。これは最近、人口の減少傾向要因に若干の改善があったことを示しています。



(3) 下諏訪町の、平成2年基準の推計値と その後の20年間の実際の人口との比較

下諏訪町の平成2年基準で算定した推計値と、この後の国勢調査による実際の人口の推移は殆ど同じでした。

下諏訪の場合にはコーホート法による推計値が、恐ろしいほどに20年後までの実際の人口の推移を見通していたことになります。

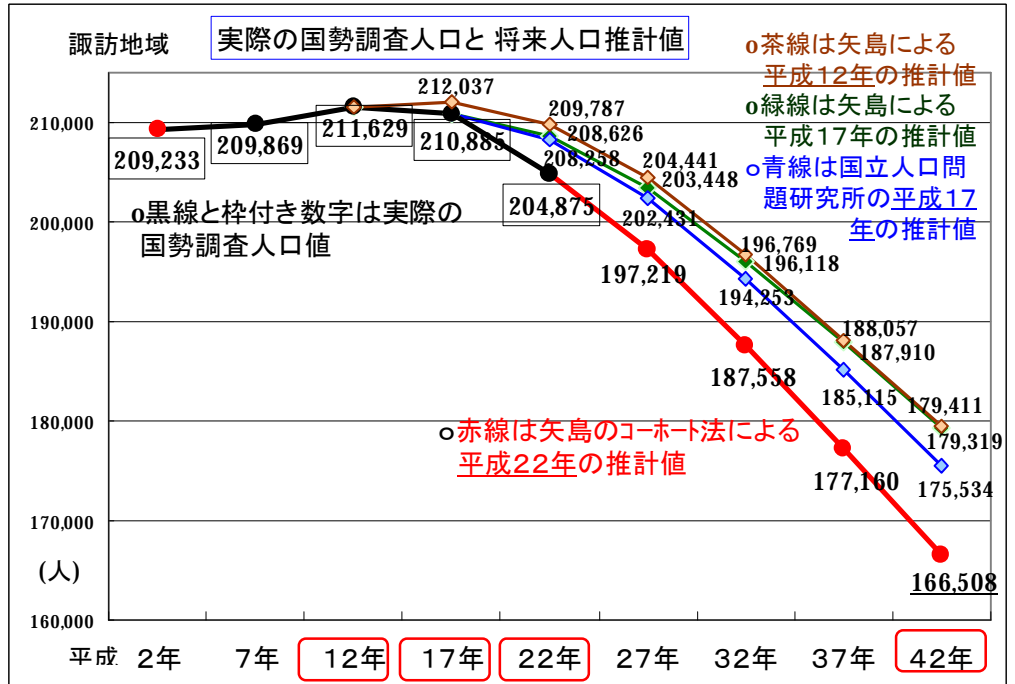


(3) 将来人口推計値は概ね正しかった

岡谷市や下諏訪町では、人口減少がはじまる当初に算出した平成2年基準の将来人口の推計値が、実際の人口の推移とほぼ同じでした。基準年より前10年間の人口動態を使い算出した推計値は、偏差があるものそれ以後20年間の実際の人口の推移を概ね正しく予測していました。

3. 諏訪地域の激減する将来の推計人口

[6市町村の推計値の合計]



注) 国立人口問題研究所の平成 22 年国勢調査値を使った市町村の推計値は、平成 25 年の暮れに公表されます。

(1) 平成 12 年と平成 17 年を基にした 3 種の将来人口推計値はほぼ似通っています

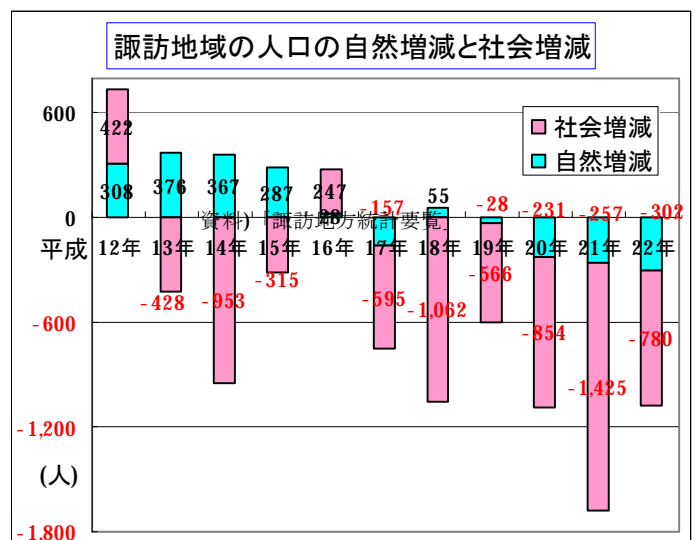
- 平成 12 年と平成 17 年の国勢調査を基準とした 2 種の推計値は、平成 4 2 年の将来人口を 18 万人弱と推計し、いずれも激減すると推計しています。
- 平成 22 年の実際の国勢調査人口 **204,875** 人は、上記 3 種の推計値よりもかなり低く、人口減少が推計値よりも大きくなったことが特徴です。平成 17 年から 22 年の間に、人口動態に人口減少を進める新しい要因があったということになります。

(2) 平成 22 年を基準とした推計値は、平成 12 年や 17 年の推計値より低くなりました

- 平成 22 年を基準とした推計値は、最近の平成 17 年から 22 年の大幅な人口減少を反映した変移率を使うため、12 年や 17 年基準よりも低い推計値となりました。
- ただし、平成 12 年から 17 年の漸減時の変移率との 2 つの平均変移率を使うので、最近の急減期だけの変移率によるものよりは緩和された推計値となります。
- 最近 5 年の変移率だけを使った推計値をだすと、20 年後はもっと低い推計値となります。

(3) 諏訪地域の最近の人口動態の変化

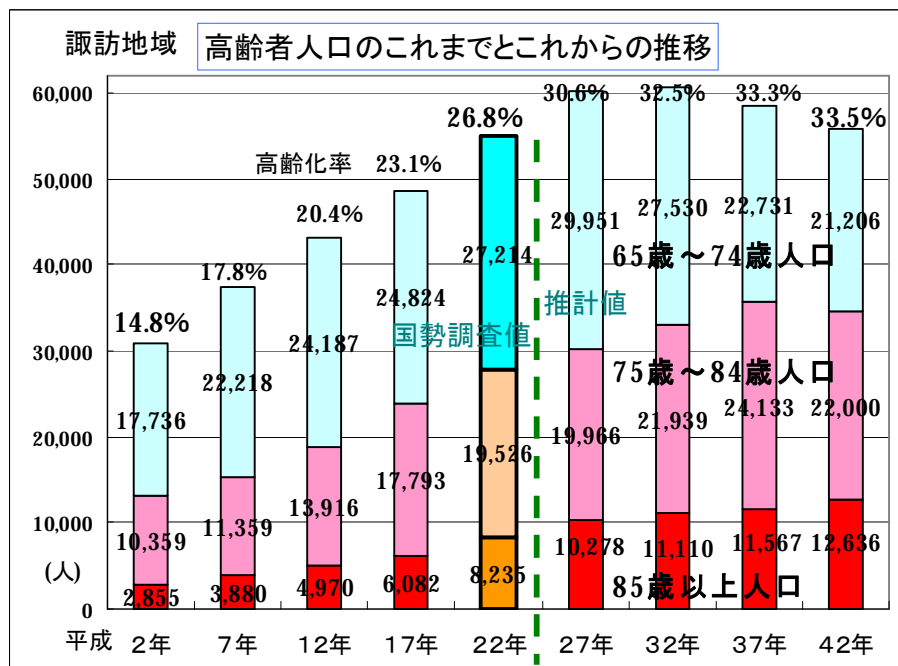
- 平成 17 年を境に大きな人口減少に入りました。
- 出生数と死亡数の差である自然増減が、これまでの自然増から自然減に転じ、近年その減少数が一段と大きくなりました。
- 転入数と転出数の差である社会増減は激しく変化していましたが、平成 17 年から連年大きな社会減が続くようになりました。これが推計値より実際の人口が大きく減少した要因の一つです。



4. 総人口は激減しても、高齢者人口は増加します

〔75歳以上の後期高齢者人口〕

平成2年	13,214人
平成7年	15,239人
平成12年	18,886人
平成17年	23,875人
平成22年	27,761人
以下 推計値	
平成27年	30,244人
平成32年	33,049人
平成37年	35,700人
平成42年	34,636人



(1) 65歳以上の高齢者人口は増加し、高齢者比率が33.5%となり3人に一人となります

(前頁の表を参照) 総人口が激減するなかで、高齢者人口だけは増加し6万人前後の人口数となります。10年後の平成32年の最多時には5,560人10%の増加になります。総人口が減少するので高齢者比率は高まり続け、平成22年の26.8%が20年後の平成42年には33.5%となり、人口の3人に1人は高齢者という社会になります。

(2) 元気な方が多い74歳までの前期高齢者はあまり増えません

平成22年の27,214人は5年後に約2,700人増えるだけで、20年後の平成42年には21,206人へと逆に約6,000人の激減となります。団塊世代の加齢に伴う変化です。

(3) 自立困難な要介護者が多くなる75歳以上の後期高齢者人口は激増します

平成22年の後期高齢者人口27,761人が、最多時の37年には35,700人へと7,939人29%も増加します。医療や介護などに多額の費用がかかる世代ですので、年金や医療・介護など社会保障制度の財政負担も激増します。

(4) 要介護者が57%いる85歳以上人口は激増し続けます

介護保健の要介護認定者は80～84歳で27.4%ですが、85歳～89歳では47.9%、90歳以上では72.6%と、加齢と共に介護になる確率が高くなります。平成22年の85歳以上の高齢者人口8,235人が、平成42年には12,636人へと4,401人53.4%も増加します。介護やそれに伴う医療需要は高まり、介護・医療分野が成長産業の筆頭にかかげられるゆえんです。しかし、生産年齢人口の激減のなか、介護や医療分野では制度や働き手、社会的負担の問題など課題山積です。

(5) 「最後まで安心して暮らせる社会」「持続可能な社会保障」の実現に課題

高齢になれば心身の衰えにより医療や介護サービスなしには暮らせません。こうしたサービスを必要に応じて受けることができれば老後の安心につながります。市政に対する市民の要望調査の筆頭にくるのは「高齢者福祉」です。介護を必要とする超高齢者が増え続ける一方で、負担をする生産年齢人口は激減するのですから老後への不安は強まるばかりです。人口減少のなかで「最後まで安心して暮らせる社会」「持続可能な社会保障」をどう構築してゆくかは、若者から高齢者まで、すべての国民の課題です。

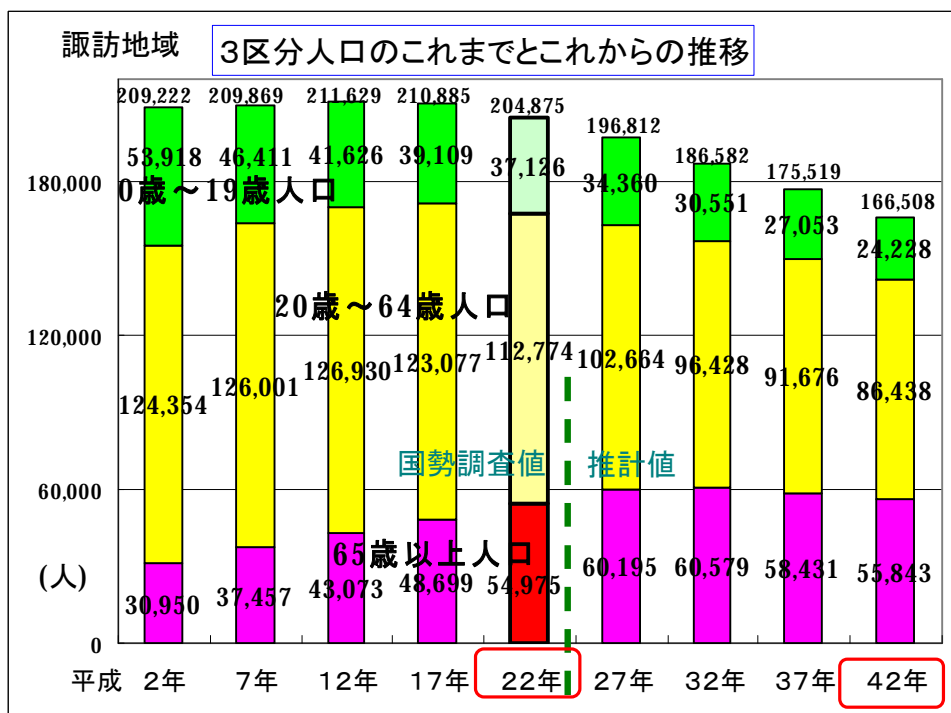
5. 生産年齢人口や若年人口は、総人口よりも大きく減少します

(1) 少子化がこのまますすめば、0歳～19歳の学齢期までの若年人口は激減します

20年前の平成2年には53,918人でしたが、20年後の平成22年には37,126人へと16,792人31%も激減しました。20年後の平成42年には24,288人と推計され、更に12,898人35%も激減します。教育環境の再編成や少子化対策が求められます。

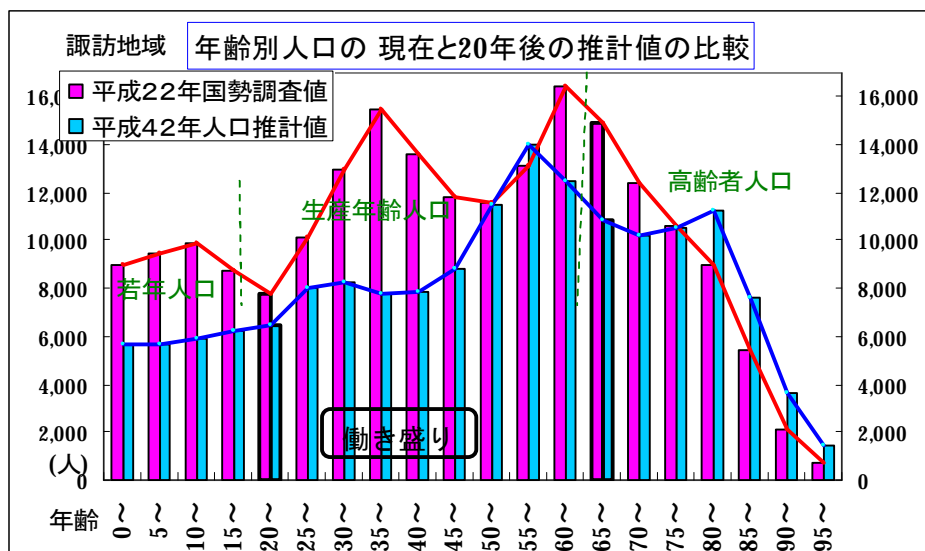
(2) 生産年齢人口(勤労人口)は20年後に3分の2に激減します

20歳～64歳を生産年齢人口はこれまで微増微減の横ばいでしたが、平成22年には約1万人の減少があり、更に20年後の平成42年までに26,336人23%も激減すると推計されます。最多時の平成12年からみると70%と3分の2に激減します。行政や各種産業分野でのダウンサイズ対応が迫られます。消費需要の高いこの層が激減すれば消費市場は縮小し、事業所ごとの競争激化や淘汰、建物や土地需要などの後退が予測されます。



(3) 30歳代、40歳代の働き盛り人口の減少はもっと著しい

特に問題なのは、生産年齢人口のなかでも30歳代、40歳代の働き盛り世代人口が著しく減少することです。平成22年の53,868人が、42年には33,445人へと38%も減少し、22年の6.2%の人口規模になります。この世代が高齢者を支えながら、なおかつ地域の活力を維持してゆかねばなりません。国や地方が膨大な借金を増やし続



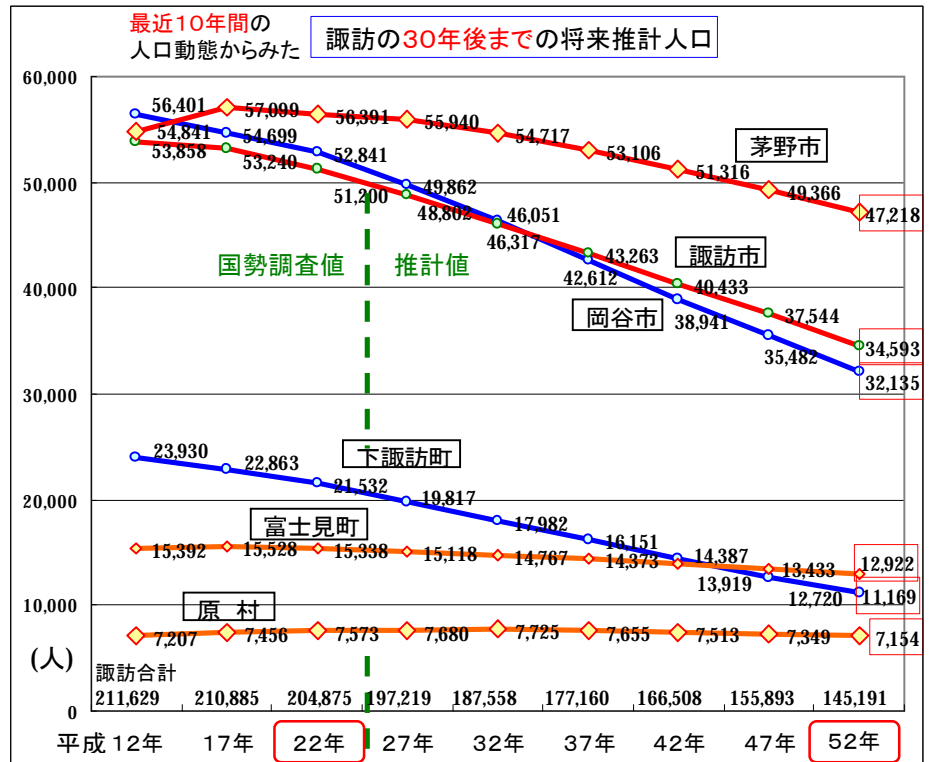
けて、この世代にそれを背負わせることはなんとしても避けたいものです。

6. 推計値では 30 年後にここまで人口が激減します

〔平成 22 年～52 年の間〕

岡谷市 20,706 人 39%減
 諏訪市 16,607 人 32%減
 茅野市 9,173 人 16%減
 下諏訪町 10,363 人 48%減
 富士見町 2,416 人 16%減
 原村 419 人 6%減
 諏訪合計

59,684 人 29%減
 全国 16%減
 (国立人口問題研究所
 の中位推計値)



(1) 30 年後の平成 52 年の将来推計人口は激減する

- ① 6 市町村の諏訪地域合計で **59,684 人** 約 **29%** と、30% 近い人口の激減 が推計されます。
- ② 湖周 3 市町の人口は特に激減 し、危機的ともいえる人口数になります。
 - 岡谷市は **20,706 人** で **39%** も減少し、一番多かった昭和 **55 年** の人口 **62,210 人** と較べると約 **5.2%** に半減します。
 - 下諏訪町も **10,363 人** で **48%** も減少し、最多時の昭和 **48 年** の人口 **27,502 人** と較べると約 **4.1%** にまで減少します。
 - 諏訪市は **16,607 人** で **32%** 減少し、最多時の平成 **16 年** の人口 **53,901 人** と較べると約 **6.4%** にまで減少します。
- ③ 八ヶ岳山麓の 3 市町村でも微増微減から人口減少にと転じます。茅野市で約 **16%**、富士見町で約 **16%**、原村でも約 **6%** の人口の減少が推計されます。

(2) 30 年後になっても高齢者人口は現在とほぼ同数で、高齢者比率は **38.2%** に

- ① 0～19 歳の若年人口はほぼ半減します
 22 年 37,126 人
 52 年 20,496 人
- ② 20～64 歳の生産年齢人口もほぼ半減します
 22 年 112,774 人
 52 年 67,047 人
- ③ 65 歳以上の高齢者人口はほぼ現在と同数です
 22 年 54,975 人
 52 年 54,010 人
 高齢者比率は **38.2%**

